９月３日（火曜日）

第３日目

令和元年９月３日（火曜日）

議事日程第３号

令和元年９月３日（火曜日）

開　　議　　午前10時

第１　一般質問

質　問

応　答

第２　議案等の付託

散　　会

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

１．日　景　賢　悟　君

・　移住・定住政策について

①　関係人口の拡大策と若い世代の志向の変化、この２つを取り入れた移住・定住政策をしてほしい

②　移住・定住希望者の障害となっている主な原因が何であるのか

③　移住希望者にとっての障害とは、裏を返すと希望や要望といったニーズでもあるのでこれらをしっかりとまとめ、分析しているのか

④　障害に対する有効な対策を持っているのか

⑤　原因を解決したり、原因そのものをなくすような努力はしてきたのか

⑥　交流人口を関係人口に昇華させ、それをさらに移住・定住人口として結果に残す具体的方法論（スキーム）があるのか、過去にどんなことをやってきたのか

⑦　移住者をふやす数値目標はあるのか

⑧　移住してほしいターゲットは明確なのか

⑨　プロモーションは潮流を捉え、的確でわかりやすく重層的でなければならない

２．田　村　儀　光　君

⑴　総合戦略について

①　これだけはやるのだという目玉は何か

②　外に強く、内に優しくについて、政策的にこういうことをやるのだということを具体的に教えてほしい

⑵　まちづくりについて

① 駅前、大町、花岡などのまちづくりをどう進めるのか

② 交通弱者対策について

③ 早口駅北側の整備について

⑶ 市道岩瀬線整備計画はどうなっているのか

⑷ 労働者不足への対応について

・ 外国人労働者の受け入れ体制はどうなっているのか

⑸ 集団健診について

⑹ 県のコミュニティ生活圏形成推進事業について

・ 大館市でも２つ、３つの集落をモデル地区にして取り組むべきではないか

⑺ スポーツ施設の減免について

・ 小・中学校のスポーツの交流試合は、県内に限らず他県から来るものも無料にしてもいいのではないか

３．笹 島 愛 子 君

⑴ 「小・中学校の暑さ対策は遮光カーテンで対応する」とのことであったが、それぞれの学校で検証したのか

⑵ 加齢による難聴者に補聴器購入費を助成するための要件や助成率なども含め、具体化に向けた取り組みの進み具合を示していただきたい

⑶ プラスチック問題も含め、「出たごみをどうするか」では、もはや解決しない。「ごみになるものを減らす」「繰り返し使う」「再資源化する」に、どう取り組むのか。また、消費者に分別を強要するのではなく、製造業者の責任でごみになるものはつくらせないことについて、市長の見解を

日程第２ 議案等の付託

出席議員（26名）

１番	柳 館 晃 君	２番	石 垣 博 隆 君
３番	小棚木 政 之 君	４番	武 田 晋 君
５番	佐 藤 久 勝 君	６番	伊 藤 毅 君
７番	日 景 賢 悟 君	８番	阿 部 文 男 君
９番	藤 原 明 君	10番	田 中 耕太郎 君
11番	佐々木 公 司 君	12番	花 岡 有 一 君
13番	佐 藤 眞 平 君	14番	田 村 儀 光 君
15番	小 畑 淳 君	16番	笹 島 愛 子 君
17番	小 畑 新 一 君	18番	斉 藤 則 幸 君
19番	岩 本 裕 司 君	20番	田 村 秀 雄 君

21番	佐藤芳忠君	22番	富樫　孝君
23番	明石宏康君	24番	相馬ヱミ子君
25番	吉原　正君	26番	菅　大輔君

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	福原淳嗣君
副市長	名村伸一君
総務部長	北林武彦君
総務課長	工藤　仁君
財政課長	桜庭寿志君
市民部長	虻川正裕君
福祉部長	安保　透君
産業部長	石田一雄君
建設部長	齋藤和彦君
会計管理者	目時俊一君
病院事業管理者	佐々木睦男君
市立総合病院事務局長	佐藤伊久男君
消防長	三浦勝彦君
教育長	高橋善之君
教育次長	本多恒博君
選挙管理委員会事務局長	安達明博君
農業委員会事務局長	佐々木金義君
監査委員事務局長	笹谷能正君

事務局職員出席者

事務局長	阿部　稔君
次長	小玉　均君
係長	長崎　淳君
主査	松田暁仁君
主査	高橋琢哉君
主査	佐藤　淳君

午前10時00分　　開　　議

○**議長（小畑　淳君）**　出席議員は定足数に達しております。

よって、これより本日の会議を開きます。

本日の議事は、日程第３号をもって進めます。

日程第１　一般質問

○**議長（小畑　淳君）**　日程第１、昨日に引き続き、一般質問を行います。

最初に、日景賢悟君の一般質問を許します。

〔７番　日景賢悟君　登壇〕（拍手）

○**７番（日景賢悟君）**　令和会の日景賢悟です。通告に従い大館市の**移住・定住政策について**質問をさせていただきます。まずは、改めて国全体の人口動態を俯瞰してみますと、日本全体が人口縮小時代に移行している中にあっても、東京一局集中と地方の人口減少がますます進んでおり、残念ながら今後もこの流れは続くと予想されております。そこで、全国の地方都市では人口減少を何とか食いとめようと、観光・交流人口の拡大策を官民挙げて進めており、結局は地域間競争が激化している感も拭えません。このような熾烈な地域間競争の中で、我が大館市は秋田犬や食を中心とした観光拡大策や、教育を中心とした交流人口拡大策を行っていることは今さら言うまでもなく、ふるさと納税の寄附額の増大や大館能代空港の搭乗率向上も含め、結果としての数字が着実に伸びてきていることは関係各位の御努力のたまものであり、ここで改めて深く敬意を表したいと思います。さて、今回の質問に入る前に私が考えている２つの前提を御説明させていただきます。１つ目は、昨今注目されている関係人口についてであります。関係人口とは、観光などで大館を訪れる交流人口と大館に住んでいる定住人口の間にいる人をあらわす概念として最近脚光を浴びております。しかし、いまだその概念は漠然としているため、一般的に浸透するには時間がかかりそうです。この関係人口がどうやら未来の大館をつくる上で欠かせない概念であり、大館の移住・定住をふやすには関係人口の拡大策が非常に有効であるのと考えから今後は、もっとそこを重点政策として取り組んでほしいという前向きな前提で質問したいと思っています。一見すると、今回の質問の要旨は移住・定住政策を正す内容に思われますが、私自身、いきなり大館への移住を目指すにはハードルが高いことは十分に理解しておりますので関係人口をふやす政策をとりながら次のステップとして移住・定住につなげてほしいとの考えに沿っていることをどうか御理解ください。２つ目の前提は、よい意味での若い世代の志向の変化についてであります。志向という字は志の向きという漢字です。私自身、釈迦内サンフラワープロジェクトでふるさとキャリア教育に携わるようになって、はや９年の年月が経過しようとしており、この間、子供たちの意識の変化に比例して、発する言葉が変化してきていることを実体験してまいりました。以前、子供たちに将来の夢を聞くと「僕は

野球選手になりたい」「僕は医者になりたい」「私は学校の先生になりたい」と、そのほとんどが自分を中心に置いて、一人称で自分の未来像を語っておりました。ところが、最近の子供たちが発する言葉は「社会に役立つ仕事がしたい」「人を助ける仕事がしたい」「地域を支える人になりたい」など、若い世代ほど自分の夢の対象は自分よりもむしろ人間社会に変化していることが特徴的です。また、20代、30代の若い世代の人とお話ししても、私たち世代が受けてきた少し前までの学力偏重・都会重視・経済優先などといった価値観から見事に脱皮しており、これから地方を担うために必要な価値観を備えた若者がふえてきている時代になっております。彼らのライフスタイルの根本には「地域課題に対して何かできることはないか」「自分の仕事やスキルを何か地域に役立てたい」というソーシャルな思考を持っており、明らかに若い世代の志向の変化を実感しておりますので、①**関係人口の拡大策と若い世代の志向の変化、この２つを取り入れた移住・定住政策をしてほしい**という前提で質問いたします。

まずは、過去に行ってきた市の取り組みや政策を理解するため、②**移住・定住希望者の障害となっている主な原因が何であるのか**をお伺いいたします。移住希望者と話した経験の少ない私の頭の中で想像するだけでも、１．自分がやってきたようなスキルを生かせる仕事がないといった仕事上の障害、２．自分は生まれ故郷だから大館に戻りたいが、子供の学校や妻の仕事の都合で帰れないといった家庭的な障害、３．地域や町内になじめるか、また、雪国の生活は不安といった生活上の障害、４．地元は給料が安いなどといった経済的障害、などが容易に想定されます。

一方で、③**移住希望者にとっての障害とは、裏を返すと希望や要望といったニーズでもありますのでこれらをしっかりとまとめ、分析しているのか**も同じくお伺いいたします。

次に、その④**障害に対する有効な対策を持っているのか**をお伺いいたします。私が考える有効な対策とは、障害や不安に対してわかりやすく正直で丁寧な切り返し問答集であり、ＱアンドＡであると考えています。先ほどの例の１から４までを言われたとき、担当者が誰であっても答えられる共通の模範回答を持っているのでしょうか。そして、この有効な対策はしっかりと市役所内で共通認識されたもので、誰が答えても同じ答えが出せる返答マニュアルのようなものが必要条件だと考えます。一番困るのは、担当者によってばらばらな経験則で答え、あやふやな対応をすることではないでしょうか。

また、⑤**原因を解決したり、原因そのものをなくすような努力はしてきたのか**ということもお伺いいたします。例えば、東京でデザインの仕事をしている人が、デザインの仕事があるかどうか不安で相談に来たとき、移住交流課の担当者が直接市内の求人情報をハローワークに聞いたり、開業したい場合は空き物件の候補地を探したり、商工課に聞いたり、要望をまとめて今後の政策に反映するよう提案するなど、市役所の各課のみならず市内企業も連携した情報共有と、移住希望者と直接話す担当者との情報共有が必要ですが、オール大館の横の連携はできているのかという質問です。

以上の質問は、移住希望者への対応に焦点を当てた質問でしたが、ここからの質問はビジネスで言うところの顧客の創造、つまり移住希望者自体をどうやってふやすかという観点から質問を行います。まずは、⑥**交流人口を関係人口に昇華させ、それをさらに移住・定住人口として結果に残す具体的方法論（スキーム）があるのか、過去にどんなことをやってきたのか**をお伺いいたします。大館に定住している立場からすると、移住者がふえることが何よりの喜びであります。しかし、移住希望者の立場からすると、一足飛びで障害を克服できないさまざまな要因があり、移住は簡単ではないことも重々承知しております。移住してほしい地元民と、障害を感じている移住希望者のミスマッチがいつまでも存在しております。だからといって、このミスマッチをいつまでも放任し、解決策を諦めていてはいつまでたっても移住者をふやせないと思います。

そこで、このミスマッチを克服する具体的方法論が必要であると提言したいと思いますが、その前に現在、市がどういう考えを持っているのかを問いたいと思っております。まずは、⑦**移住者をふやす数値目標はあるのか**を伺いたいと思いますが、私はＫＰＩに捉われない意欲的な数値目標を立てるべきではないかと考えています。

同時に、⑧**移住してほしいターゲットは明確なのか**もお伺いいたします。もし、明確でないならば明確にすべきであるとこの場をかりて強く訴えたいと思います。今までのように、大館に移住したい人は誰でもターゲットで、個人の要望は千差万別で、それぞれの要望に合うように準備をしてやるのが行政の仕事であると考えると、結局こちらの姿勢がぼやけてしまい、移住希望者の視点からすると他市町村との差別化ができず、金太郎あめのような政策に見えるはずです。これからは、大館のどこで、どんな人に、どんなライフスタイルで生活を送ってほしいのかを私たちの意見として定義し、候補者に提案できるくらいの下準備を進め、このライフスタイルを求める人はどこにいるのかを探し当て、ピンポイントで提案しに行くやり方にかじを切ってほしいと願っています。つまり、待ちの姿勢から脱却し、来てほしい人のイメージを明確化し、未来の大館のライフスタイルを一緒につくっていきましょうと、自信を持って勧誘するくらいの心意気を期待しております。なぜ、このようにターゲットを明確化すべきと強く訴えるかというと、前段で述べた２つの前提があるからです。関係人口の増加と、若い世代の志向の変化が日本社会の潮流になりつつあり、この流れはしばらく続くと考えています。東京一局集中の限界と、地方の人口減少がお互いに臨界点を迎え、潮流がかつてと逆になりつつある中において、今、首都圏に生まれ育った人の中には心のふるさとが欲しいと願うふるさと難民がふえています。同時に、将来にわたって隣の人との交流や会話もない中で生活することへの不安から、人とのかかわりが欲しいと願う人も多くなっています。これがひいては人とかかわり、人の役に立ちたいと考える志向につながっています。ところが、それを首都圏では実現できないため、どこがいいのかと関係先を探しているのが現状です。つまり、ふるさとと思える場所と人を潜在的に探しているはずです。仮に、この層をターゲットに設定したとき、おの

ずと宣伝プロモーションの仕方は今までと違ってくるはずです。知恵を絞ればやれることは無限にあると思いますが、私が移住交流課の職員であれば、すぐにふるさと納税の商品の中に移住提案のパンフレットを同封してもらうように働きかけます。なぜなら大館にふるさと納税をしてくれた人は、求める移住のターゲットに全て合致しているからです。インターネットで申し込みが多いふるさと納税は若い人が多く利用しており、地域の役に立ちたいと願う人も多く、さらに大館とは既に関係人口になっています。ふるさと納税の昨年度の実績ベースで換算しますと、寄附額は約７億8,600万円で返礼品の発送個数は何と６万1,600個以上であります。市役所は移住を勧めるパンフレット作成の予算を組み、発送商品の中に同封してもらうように市内の企業に協力してもらうだけで６万1,600人にコストをかけないピンポイントのプロモーションができるはずです。同時に、時々東京都内で行っている移住フェアへの告知と、来てくれた方へのインセンティブも同封すればさらにヒット率は高くなるはずです。

⑨**プロモーションは潮流を捉え、的確でわかりやすく重層的でなければならない**と思います。重層的とはわかりやすい言葉でいうと、あらゆる角度から何度も畳みかけることだと思います。秋田県人は遠慮深い人が多いので、余りしつこく勧誘すればかえって嫌われると思いがちですが、潜在的に心のふるさとを求める人からすれば、大館の人は「熱意がある」とか「移住に熱心だ」と前向きに捉えるはずです。以上のように、観光客などの交流人口を関係人口に昇華する具体策は、大館びとの知恵を集めればまだまだやれることがあるはずです。さらに、関係人口を定住人口に昇華させる具体策もまだあるはずです。逆に関係人口を交流人口に落とし込むことも可能であります。今の政策は、そこがばらばらに分断されているような気がしてなりません。もっと、横の連携や情報共有があれば有機的に実績を残せると思います。そして、今後は移住者のフォローにも力を注ぐべきだと考えます。移住者の得意分野を最大限発揮できる役割を明確化し、大館における自己有用感が高まるような仕事を見つけ、これをステップに次のステージでは地域課題を移住者自身が解決する仕事をすることで、大館の課題が自分事になり、ますますソーシャルな感覚を持つことにつながっていくことが理想だと考えます。そのため、移住者を地域とつなぐコーディネーターの役割が大事になるはずです。結びに、教育長がふるさとキャリア教育の中でよくおっしゃっている少数精鋭のまちづくりとは、自分の仕事だけとか、自分の家族だけを考える大館びとがいる町ではなく、「志民」一人一人が社会とのかかわりの中で役割を持ち、みんなで課題を解決するソーシャルな感覚を持つ人材がふえることを希望しているはずです。私も今後は「移住者も「志民」と一緒に未来の大館のライフスタイルを一緒につくって行きましょう」と自信を持って提案することを約束しまして、質問を終えたいと思います。

御清聴ありがとうございました。**（拍手）（降壇）**

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの日景賢悟議員の御質問にお答えいたします。

１点目、**移住・定住政策について**。**①交流・関係人口を移住・定住人口につなげる政策**についてであります。質問にお答え申し上げる前に、日景議員の２つの前提のうちの前段の関係人口について一言触れさせていただきます。新元号令和のもと、政府においては令和初の予算編成である令和２年度の予算編成が真っ盛りを迎えていますが、その中のキーワードが関係人口との報道が先般なされております。実は、大館市においては４年前から関係人口という言葉を使わせていただいて、その関係人口という言葉を引き出したのは４年前の日景賢悟議員の一般質問であるということを改めて指摘させてください。その上で、お答え申し上げたいと思います。外とのかかわりにより町の成長につなげる関係性人口の拡大、そして、人を呼び込み、地域の活性化につなげる交流人口の拡大は、移住者の増加のみならずあらゆる面でまちづくりに欠かせないものと捉えております。市長就任以来、最も力を入れてきた分野であります。これまでに、秋田犬を基軸とした観光振興、３Ｄ連携や奥州藤原氏を縁とした交流、歴史まちづくりを通じた自治体間の交流、空港利活用促進協議会や各期成同盟会を通じた自治体間の連携、防災力向上をテーマとした連携、共通課題の解決に向けた民間事業者との連携、海外トップセールス活動など、さまざまな方面で交流を生み出し関係性の構築に力を注いでまいりました。今年度は、新たに総務省の関係人口創出・拡大モデル事業を活用した取り組みを現在進めております。これは、埼玉県の女子栄養大学と連携し、都市部に住んでいる方々に本市の魅力をアピールするもので、視察ツアーやワークショップを行うことなどにより関係性を深めていくものであります。市では引き続き、交流人口・関係性人口の拡大に向け、手を緩めることなく積極的に取り組んでいくつもりであります。一方、移住・定住を促進するためには、暮らしやすさや行政の支援、地域の受け入れ体制など、まちの総合力が求められるとともに、あわせて独自性のある政策が欠かせません。まずは興味を持ってもらい、何度も足を運んでいただき、移住希望者を地域や人とつなぐ過程が最も重要であり、各段階において適時適切な支援をいかに行うかが非常に重要であると考えております。これらを踏まえ、移住・定住促進策は、交流人口・関係性人口の拡大に向けた取り組みとあわせ、市が行うさまざまな分野の事業と複合的に展開させていかなければならないと考えています。

②移住・定住の障害になっている原因は、③障害になっている原因（ニーズ）を分析しているかについてであります。この２点につきましては、関連がありますので一括してお答え申し上げます。移住相談会やＡターンフェアなどにおいて、相談者から多く寄せられる不安の声は「これまでのスキルを生かせる仕事はあるか」「給与等の待遇面はどうなのか」「住居探しはどうしたらよいのか」などであります。また、総務省が昨年３月に公表した田園回帰に関する調査研究報告書によると、移住の際に最も重視した条件として「生活が維持できる仕事があること」「子育てに必要な環境が整っていること」「生活に必要なサービスや施設があること」がいずれも上位を占めております。以上から移住に踏み切る障壁となっているのは仕事・住居・子育て・日常生活が主なものと分析しております。

④原因に対する「有効な対策」を持っているか。⑤原因解決のため、どのような政策を行っているかについてであります。この２点につきましては、関連がありますので一括してお答え申し上げます。仕事については、特色ある産業や魅力あふれる地元企業など、働く場の状況を紹介するとともに移住希望者と求人企業とのマッチングを図るため、Ａターン登録を進めております。また、起業意欲の高い移住希望者には、創業支援事業により手厚い支援を行っております。次に住居については、空き家バンク制度により市内の空き家を紹介するとともに、住宅リフォーム支援事業や定住奨励金などにより住まいの確保を支援しております。さらに子育てについては、子育て世代包括支援センターさんまぁるを初め、充実した子育て支援メニューやふるさとキャリア教育など高い教育力を情報発信しております。また、日常生活については、移住者や移住希望者、地元支援者の交流の場である大館びとの会の活動や移住者本人の情報発信を通じ、移住者の不安や悩みの軽減につなげているところであります。移住・定住の促進については、市として、最も力を入れていかなければならない人口減少の解決に直結した施策でありますので、総合計画や総合戦略の策定を通じた政策づくりにおいて、常に念頭に置かれており、全庁で共有を図っております。

⑥政策を結果に残す方法論やスキームがあるかについてであります。４年前、大館市長に就任させていただいて、移住交流課の担当職員と政策協議をさせていただいたときに、移住交流政策は大館を、その人にとって第二のふるさとにすることであり、移住を決めてくださる人の気持ちに立って、いわゆるマーケティング理論の一つにＡＩＤＭＡの法則という概念があります。Ａｔｔｅｎｔｉｏｎ――まずは注目していただいて、Ｉｎｔｅｒｅｓｔ――興味を持っていただいて、Ｄｅｓｉｒｅ――欲求を持っていただいて、Ｍｅｍｏｒｙ――それを心の中にインプットしていただいて、それがＡｃｔｉｏｎ――行動につながるＡＩＤＭＡの理論で進めていこうと共有させていただいたところであります。また、田園回帰に関する調査研究報告書では、移住の決め手として移住コーディネーターや先に移住している人など、特定のキーパーソンとの出会いが大きな要因であったケースが多く見受けられることから移住・定住の実現にとって重要な要素は、やはり人に尽きると考えております。市では、移住の相談があった際、信頼関係を第一に、相手に寄り添い、心に響くような対応に努めるとともに、きめ細かに連絡をとり、関係性の構築を図っております。議員御指摘の対応マニュアルについては、移住希望者に対し、誰が担当してもきちんと対応できる体制を構築する上で重要であると考えますので、その作成に取り組みます。

⑦数値目標はあるのか、⑧ターゲットは明確かについてであります。この２点につきましては、関連がありますので一括してお答え申し上げます。移住・定住に関する数値目標につきましては、第２次新大館市総合計画の中において、市が関与したＡターン者数を年間20人としております。平成30年度の実績は20人であり、２年連続で目標を達成しております。ちなみに令和元年８月31日現在のＡターン登録者数は、秋田県全体で972人、このうち大館市に勤務を希

望している人は161人であります。このようなデータをきちんと押さえておく必要があると思っております。昨年度の移住者のうち16人がＵターン者であることが判明しており、Ｕターン者へのアプローチが効果的と考えております。また、本市における年間人口減少数のうち、転入者数から転出者数を引いた社会減が、ここ数年240人前後で推移していることからも、本市が移住を重点的に働きかけるべき対象は本市出身のＵターン希望者であると捉えております。

⑨**プロモーションは的確かつ重層的か**についてであります。歴史まちづくりや秋田犬を基軸とした観光振興などによるにぎわいづくり、手厚い子育て支援策やふるさとキャリア教育を通じた人材育成などによるひとづくり、生活支援や介護予防、介護・医療の連携などによる安心づくり。市では、こうしたまちの魅力を高める取り組みを推進すると同時に、移住プロデューサーを中心とした移住相談や移住者に寄り添った支援など、さまざまな角度から移住・定住促進策を積極的に展開しております。また、移住を考える上で最も重要なのが、そこでの暮らしが具体的にイメージできるかでありますので、まずは、本市の持つ魅力や状況を知っていただくことに努めております。情報発信ツールとしては、最も移住してほしいと考えている若い世代に対して効果的なＳＮＳを積極的に活用しております。こうした中、８月24日に都内で開催された地域の魅力発見フェアにおいて、29組34人に対し大館の暮らしなどについて説明したところであります。こうした都内での相談会の際には、遠方で暮らす御親族にお声がけしていただくよう、記者会見等を通じ御家族にも呼びかけているところであります。また、実際に大館に滞在していただき、暮らしを肌で感じていただくことも効果的でありますことからサテライトオフィス事業や教育ツアーとのタイアップに取り組んでいるほか、今年度新たにふるさとワーキングホリデー事業を実施しております。なお、議員御指摘のとおり、移住希望者の傾向として、ライフスタイルを重視する移住者がふえており、田園回帰に関する調査研究報告書においても同様の指摘がされております。市としても、大館暮らしをさらに深堀りし、より具体的に大館での暮らし方を提案していけるよう検討してまいります。しかしながら移住・定住は、一朝一夕に成果が上がるものではありません。だからこそ、行政としても各課の垣根を越え、常に移住・定住を念頭に置いた取り組みを庁内横断的に展開していかなければならないと考えております。また、市民一人一人に情報発信源となっていただけるよう、大館の宝を市民の皆様にしっかりと認識していただくことも重要と考えております。自分のお父さんやお母さん、兄弟の悪口を言う人の家に遊びに行くでしょうか。私は行かないと思います。このようなことが根本的に必要なのだと考えています。移住・定住の推進は、国や県を初め関係機関と連携しながら、まさに総力戦で臨む所存でありますが、まだまだ至らない点も多々あるのは事実であります。さまざまな方々の御意見に謙虚に耳を傾けるとともに、取り組みを進める中での気づきを議員の皆様と共有させていただき、常に施策を改善してまいりたいと考えておりますので日景議員におかれましても、引き続き大所高所から御指導賜りますようお願い申し上げます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。**（降壇）**

○７番（日景賢悟君）　議長、７番。

○議長（小畑　淳君）　７番。

○７番（日景賢悟君）　再質問します。今まで市が行ってきた一連の政策や細かい数字をお答えいただきまして感謝申し上げます。これは、多くの市民が見ていらっしゃると思いますし、新聞紙上にも細かい数字が掲載されると思いますので、今回改めてこのような数字を表現することは非常によいことだと思っております。先ほど、ライフスタイルの話をさせていただき、市長もライフスタイルが大事だとお答えいただきましたが、個別具体にそれぞれの課がそれぞれ一つ一ついろいろな努力をされているのは十分わかります。私が言うライフスタイルというのは、例えば、食でいうと料理のようなものだと思っております。わかりやすく言えば、大館の米や野菜、肉について、それぞれ一つ一つ素材を提案するのではなく、一つの料理としてお客様にどう楽しんでいただけるかがライフスタイルだと思います。たくさん温泉があり、おいしい料理が食べられるというような年間を通したライフスタイルというものをしっかりとつくり上げるというか、それは客観的に求められるものではなくて、これからの若い人たちが大館でどういうライフスタイルを送りたいのかということをモデルとして、我々が考えて提案すべきだと今回の質問の中でお話しさせていただきました。その点について、市長が考える大館のライフスタイルと、他市町村と比較して大館のどこが一番魅力的なのかお答えいただきたいと思います。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（小畑　淳君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　今の日景議員の例えは、非常にわかりやすくてよいと思います。大館市をレストランに見変えたときに、どういうメニューがあるのか。レストラン大館に来ていただくお客様にとって興味のあるところだと思います。それがリーズナブルなのかということも興味と関心の的だろうと思います。捉え方で政策をつくっていくことは非常に重要だと思いますので、秋に予定されている政策協議の場において、担当の課だけではなくもちろん総務部にも入っていただいて議論していきたいと思います。私ごとで恐縮ですが、私がここに帰ってきたのも、まさに大館での経験が下地にあります。温泉がたくさんあり、四季の景色も明確で、白神山地や十和田湖などいろいろなところに近いことが魅力の一つだと考えています。恐らく、ふだんここで暮らしている人間は絶対に使わないのですが、私が海外に行ったときに「世界自然遺産の白神山地の山系、東の麓に大館があります。そこは非常に自然が豊かで、かつ、環境リサイクル、鉱山の技術を活用した環境先端都市でもあります」とＰＲすると、特にアジアの方々の反応が全然違います。むしろ、そのような大枠から下に落とし込んでいくということも非常に重要だと思っています。一方、地域おこし協力隊であれば、手を挙げてくれる女性の方々、もともとペット専門学校にいた２人、犬のトレーナーであったり、そのようなキャリアを生かしたいと思って来てくれる方。また、私の友人で実際に移住した人がいますが、釣りが

大好きで米代川に憧れて、米代川が見えるところに住みたいという人がおりました。その人は、舞台の背景の絵を描く人です。こういう方々の技術を生かして何かできないのかと考えていまして、まさに移住交流の施策は拡張性があるというか、各課横断で対応していかないと一人一人のお客様のニーズに応えられません。しかし、その分やりがいのある政策分野だと思います。それが人口減少に直結する政策でもありますので改めて手を緩めることなく取り組んでいきたいとお話しさせていただきたいと思います。

○７番（日景賢悟君）　議長、７番。

○議長（小畑　淳君）　７番。

○７番（日景賢悟君）　先ほど、一般質問の中で寄附額約７億8,600万円、返礼品発送個数６万個以上あるというふるさと納税を活用して、返礼品の中に移住のパンフレットを入れてはどうかという提案をさせていただきました。非常に有効なことだと思いますし、逆になぜそれをやってこなかったのか。そのような考え方をすると、移住政策だけではなく、大館が発信しているものと連携した形で進めていけば、もっとローコストでいろいろなことができるのではないかというアイデアを出させていただきました。この点に関して、市長の考えをお伺いします。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（小畑　淳君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　早速、取り組みたいと思います。

○議長（小畑　淳君）　次に、田村儀光君の一般質問を許します。

〔14番　田村儀光君　登壇〕（拍手）

○14番（田村儀光君）　令和会の田村儀光です。市長は２期目の任期に入り、私は市長の応援団の一人として一生懸命支持しておりますが、最近、わずかな人数ではありますが、市民と触れ合う機会があります。そこで、福原市政に対する支持率を最近考えております。福原市長支持は60％であり、そのうち「誰でも同じだから」が30％、そういう結果を、市内を歩いて感じております。支持率的に言いますと、内閣支持率60％のようなもので「誰がやっても同じだから」が30％であるという感じがしております。そういう人たちに対しては「２期目に入ったので、もうちょっと待ってほしい」と何回も言っております。「今まで一生懸命に種をまいて、これから芽が出て花が咲き、実がなるので、もう１期長い目で見てほしい」と常に市民の皆さんに言っております。支持率は私の勝手な解釈でありますので、福原市長が気にするかしないかに関係なく、私は一生懸命支持していますので、頑張っていただきたいと思っております。それでは通告に従いまして質問をしたいと思います。

１点目、**総合戦略について**であります。第２次新大館市総合計画は４年目に入り、前期基本計画、総合戦略も今年度で終わりになります。この間の新聞報道にもありましたように、もう当局では第２期総合戦略についての本部会議で骨子案の協議が始まっております。本当に盛り

だくさんの政策で市長は大変だといつも思います。いつも言っておりますけれども、この中で市民に納得してもらって①**これだけはやるのだという目玉は何か**伺います。まだ第１回目の協議が始まったばかりですが、福原さんの腹の中には、４年目は何をやるのだというものがあると思いますので、数ある政策の中から、それぞれの政策の中から、これだけは先にやりたいというものを具体的に市民に教えていただきたいと思います。私は、なかなか福原さんと話をする機会がないので、これを聞いておかないと市民に聞かれた場合に答弁に困ります。ただ４年待ってほしい、５年待ってほしいとの答弁ばかりしていると、実際にこのようなことを考え、このようにやっていきますということを市民に伝えていきたいと常々思っていますので、総合戦略の目玉を何点でもいいですから、今、福原市長の腹の中にある２期総合戦略にこれだけは入れた、というものがあったら教えていただきたいと思います。この新聞を見ますと、10年後、20年後を見据えて「外に強く、内に優しく」という言葉が２期目に入ってからたびたび出てきます。これもわかるような、わからないような、市民からもよく聞かれますが、具体的にはどういうことでしょうか。過去４年間を見ますと「外に強く」とは確かにそのとおりで、そのおかげで関係性人口、交流人口がふえてきています。予算的にも外には強いけれども「内に優しく」については予算が少ないのではないかという個人的な思いです。きのうの同僚議員の質問に対してこの意味は説明しましたけれども、②**外に強く、内に優しくについて、政策的にこういうことをやるのだということを具体的に教えていただきたい**。

２点目、**まちづくりについて**。これも何回も言っています。私も常に市民に訴えています。①**駅前、大町、花岡などのまちづくりをどう進めるのか**についてですが、駅前の秋田犬の里はことしで全部の工事が終了します。駅のビルに関しては設計が始まっていますので、来年から施工して２年後には新しい駅舎が完成します。その後の駅前はどのような状態になるのでしょうか。単に駅を新しくして、秋田犬の里が完成するだけでいいのでしょうか。その中身についてはきのうも答弁していましたが、どのようにしてもっと大館らしさを出していくのでしょうか。前にも言いましたが、御成町一丁目に住んでいる方々の民意をきちんと聞いて、ぜひ進めていってほしいと思っていますので、その辺について市長の意見をお聞かせください。大町についても、きのう同僚議員から旧正札竹村解体後の計画に関する質問がいろいろありました。あそこについては、私は解体現場を見に行っていますが、見ると大した場所でもなく、隣近所をどのように活用するのでしょうか。ハチ公小径は一軒も営業しておらず、あの建物もどうするのでしょうか。それから、きのう市長が答弁しておりましたが、駐車場跡地、解体した駐車場、スカイパーキングも含めて大町一帯をどのように活性化していくのでしょうか。これも市の計画があると思いますが、まずは地元に住んでいる市民の民意を必ず聞くことが先だと思います。民意を聞いて慎重に検討して大館の発展につながっていけるようにしていただきたいと思います。花岡総合スポーツ公園については県の事業であり、県から譲り受けたところですが、解体も耐震工事もほぼ終わったと新聞で報道されております。私は現場を見ていないのでわか

らないため委員会で調査したいと思っていますが、この花岡総合スポーツ公園の解体後、大分がらんとしたと思いますが、どのような運営をしていくのか、計画がありましたら教えていただきたいと思います。第２期総合戦略には、ぜひ駅前、大町、花岡なども入れていただきたいと思います。合宿の誘致も視野に入れ、これについては昨年の12月議会にも原案を示しておりますが、これも決まっていることがありましたら、市長の考えでもいいですので、市長はどういう花岡総合スポーツ公園にしたいと考えているのかをお聞きしたいと思います。

②**交通弱者対策について**ですが、これについては、きのう同僚議員が27分かけて現状を説明して、今の公共交通のあり方についていろいろ質問しておりました。これに対する市長の答弁はすばらしかったです。「やります」の一言で終わりました。質問者にとってはありがたい「やります」答弁でありますが、私はいつまで何をどのようにやるのか、その辺をもうちょっと突っ込んだ具体的な「やります」の中身を聞きたいと思っておりました。きのう市長が答弁していましたが、田代地域では去年12月にＮＰＯ法人福祉ネットが認可されました。そして４月から活動する予定でしたが、それがいまだに活動できないでいます。それも視野に入れて市長はいろいろ考えておりますが、その中身について、福祉ネットをつくった代表になぜ何もやらないのか聞くと「地域公共交通活性化協議会やバス会社からクレームがついたためやれない」ということでした。認可を受ける段階でどういう枠があるかわかりませんけれども、特にこの代表の方は本当に真面目な方なので、ちょっとした障害があると何もできません。まずできることからやってみたらどうかと言っても全然動かず、認可はもらったけれども全然活動していないような状態です。これは市長も多分わかっていると思いますが、市役所からヒントを与えて、とりあえずこういう動きをしてみてはどうかということを支援いただければありがたいと思い、交通弱者対策を取り上げましたのでよろしくお願いします。

③**早口駅北側の整備について**伺います。早口駅北側には若杉団地がありますが、ここは合併前から、団地を造成する段階から北側にも乗り降りできるように整備をしてはどうかとＪＲと協議してきました。旧田代町時代には車で往復するとか、歩道橋をつくるなどいろいろな案がありましたが実現できずにきました。今になってみると、大館市内は駅前、大町、花岡といろいろ開発が進んでおります。田代地域の藤の郷の去年の入場者数は、私は３万人を超えていると感じています。いろいろなイベントと比べて、花一つだけで藤の郷には３万人もの人が来ていると思っております。それだけではなく、次の質問にも関連しますが、田代岳があります。市長からは、大館は観光地ではない、観光化はできないという考えが変わって、インバウンド受け入れなどの努力のおかげで秋田犬の里を初め秋田犬や食べ物など、観光地化しているという話がありましたが、田代地域の人からすれば、合併前から田代岳を絶対観光地にしたいという思いがあります。それも、ただ日帰りの観光地ではなく田代岳周辺を整備して、ぜひ宿泊できるような観光地にしたいと思います。次の質問にもかかわってきますが、大館の一番の観光地といえば田代岳と言われるためには、現在、田代地域に行くにも、藤の郷に行くにも、ほと

んど車で来ていただいておりますが、鉄路を利用するお客さんにとって一番近くにあるのが早口駅なのです。北口を整備すれば国道７号にも近く、もしかするとタクシー会社も再びできるかもしれません。５年先、10年先を見ると、いろいろと可能性が広がります。そのような意味で、早口駅北側の整備についても考えていただきたいと思いますし、市長の考えをお聞きしたいと思います。

３点目、**市道岩瀬線整備計画はどうなっているのか**についてであります。山瀬ダムから田代ロケット燃料燃焼試験場までの十数キロメートルを２年前に市道認定していだだきました。ありがとうございます。そのときの話では、10年で10億円くらいかけて、５メートル幅の舗装道路をつくるという話でした。あれから２年がたち、この間、五色湖の近くに風穴があるようだという新聞記事が出ました。これは観光地の一つになると思い、先月、森林レクリエーション田代地区運営協議会が現地調査を行うということで、オブザーバーとして同乗させていただきました。現地へ行ったところ、市道になったけれども道路が全然変わっていないと感じました。あれから２年がたちましたが、市長は10年かけて、10億円かけて舗装するという話でありました。単純に考えれば１年に１億円、２年で２億円かけているなら100～200メートルは舗装していると思っていましたが、１メートルも舗装しておらず現状のままでした。これではどうしようもないと思います。そして、風穴があるということを確かめてきました。あと１年間調査を継続するそうですが、もし本当に風穴と認定されれば、また新たな観光客をあそこに呼べるのではないかと思います。藤の郷から始まって、山瀬ダム、田代林道を行って糸滝、風穴とすごい観光地になると思っております。これは以前も言いましたが、田代地域の人にとっては、10年、20年、30年後には田代岳を一周できるように市道認定していただきたいという思いで一杯ですので、市長の考えをお聞かせ願います。

４点目、**労働者不足への対応について。外国人労働者の受け入れ体制はどうなっているのか**伺います。今、外国人労働者はかなりの人数です。これは人口減少が一番の原因ですが、働く人がいない、人手がないということで、話を聞くと、企業が自分の努力で一生懸命外国人材を集めて仕事をしているそうです。御承知のように、この間の新聞によると、今春の高卒者の県内求人倍率は3.27倍であり、それだけ人手がいないということです。外国人を集めるにも企業努力で一生懸命歩いているようですけれども、これに対して市としての何か支援の方法はないのでしょうか。私は思い浮かびませんが、何かありましたら市長の考えをお聞きしたいと思います。市長はトップセールスで台湾やタイ、中国に行っていますが、労働者不足に対してのトップセールスをしてみてはどうでしょうか。外国人労働者で一番多いのがベトナム人で、次に多いのがカンボジア人、フィリピン人だそうです。できればトップセールス先をカンボジアにして、それに特化してトップセールスをするとか、何か企業に支援・協力できるようなものがあるのではないかと思うのですが、市長の考えをお聞きしたいと思います。

５点目、**集団健診について**伺います。これは年１回７月頃に各地で行っていますが、田代地

域の岩野目地区の方からがんがんと毎日のように電話が来ました。ことしから二井田・十二所・曲田など、毎年健診を行っていた会場が数カ所減らされたようです。「言っていることとやっていることが違う」と、かんかんに怒られましたが、怒られて当然だと思います。集落ではことしは集団健診をやらないのか、毎年やっているのに何が原因だろうかと思い、私に原因を聞いてほしいということで何度も電話がありました。当局から聞くと、去年と比べ人数が減っているため会場を減らし、早口会場まで来てもらうことになったそうです。岩野目の役員会でもいろいろ意見が出たそうですが、事前に人数をふやしてほしいなどの相談があれば、集団健診に行きたくても行けない交通弱者や足が悪くて歩けない人を集団健診会場に連れて行くそうです。それを事前に何の通知もなく、いきなりことしの予定地区から外されたことに非常に憤慨しており、これは当然だと思います。「市長は言っていることはいいが、やっていることはでたらめではないか」と、がんがんと毎日のように電話が来ます。本当の話です。やはり市民が大事ですから市民の声を聞き、ことしはこういう理由でこうしたいと通知するべきです。秋田県は健康長寿日本一を目標としており、大館市もそうですが、私に言わせれば、健康長寿日本一を目指すのであれば、集団健診での早期発見・早期治療が大事だと訴えていながら、何の事前通告もなく毎年実施されると思っていた集団健診が実施されないとなれば、住民から苦情が来るのは当たり前の話であります。市長が悪いのか職員が悪いのかわかりませんけれども、この辺をきちんと答えてください。集団健診は年に１回ですから、来年の７月の計画もあると思います。今言ったとおり、健康長寿日本一を狙う秋田県であれば人数が10人だろうが３人だろうが、経費がかかろうが、こういうものには必要な経費をかけてください。住民のためになるようなことをやってくださいといつも言っていますので、この辺について市長の考えをお聞かせください。お願いします。

６点目、**県のコミュニティ生活圏形成推進事業について**。これは県の事業ですが、人口減少対策として新たな生活圏の形成のため、秋田県から５つのモデル地区が選ばれました。その県内５つのモデル地区に山田地区が選ばれました。ありがとうございます。これもよい事業だと思っていますが、金をかける事業ではありません。山田地区には島根県から調査に来たようですが、人口などを調査し、どうすれば人口減少にならない現状維持の永続可能な集落ができるかということを、県がいろいろな先生方を連れて来たり、地域の人と話をして実施する事業だそうです。10月、11月には住民と一緒にワークショップを２回開いて、来年に備えるということであります。人口減少の現状や地区の悩みを分析し、定住効果・目標の設定や対策を考え、来年度は住民主体で取り組む行動計画の策定を目指しています。これを**大館市でも２つ、３つの集落をモデル地区にして取り組むべきではないか**と思っておりますので、市長の考えをお聞かせください。市の職員に言わせると、これは大館のまねをしているという話でありましたが、大館には地域応援プランステップアップ事業あります。この事業の助成額は上限が300万円です。確かに地域のためにいい事業ですが、あくまでも地域で頑張って計画を出して、プレゼン

がよければ予算をつけるものです。確かに予算をもらうことはありがたいのですが、県で行っている事業はそのきっかけづくりといいますか、実際に集落に入って問題点を見つけて、村の人と話をするものです。確かに予算を持っているのは地域応援プランの方が先かもしれませんけれども、市役所としてはモデル地区をつくって集落に入ってきっかけをつくり、その上で地域応援プランの事業ができるような体制にもっていった方がいいのではないかと思いこの質問をしました。市長の考えをお聞かせください。

７点目、**スポーツ施設の減免について**。小・中学校のバレーボールや野球など、いろいろな市町村と交流試合が行われているようですが、私が言われたのは、大館の小・中学校は使用料が減免されるそうですが、他市から来ると使用料がかかるそうです。「他の市町村はどこもただなのになぜ大館市だけ有料なのか、都合が悪い」という話が出ました。そこで調べてみたら、私に言った人との話と違って、実際に無料にしているのは小坂町と能代市だけで、その他はほとんどが有料でした。大館として**小・中学校のスポーツの交流試合は、県内に限らず他県から来るものも無料にしてもいいのではないか**と思います。大館は子供に優しい、育てやすい市で通していますから、その辺を考えてもらいたいと思います。無料なのは小坂町と能代市だけで聞いた話が違うと思いましたが、大館として無料にすることは市長の判断でできますので、市長の前向きな「やります」という答弁を聞きたいと思います。よろしくお願いします。

以上で、質問を終了します。ありがとうございました。**（拍手）（降壇）**

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村儀光議員の御質問にお答えいたします。

１点目、**総合戦略について。①総合戦略の目玉は何か、②外に強く、内に優しくとは具体的にどのようなことか**についてであります。この２点につきましては関連がありますので、一括してお答え申し上げたいと思います。「外に強く、内に優しく」について、さまざまな会で私は「町と町とをつなぐことで外に強く、暮らしと暮らしをつなぐことで内に優しい、まさに未来に町をつないでいくまちづくりを目指します」というお話をさせていただいております。「外に強く、内に優しく」、これは新元号令和の中でのこれからの市政の方向性を示しております。「外に強く」とは、一つは本市産業の稼ぐ力を高めることであります。地域産品のブランド化、陸路・鉄路・空路そして航路、あるいは海路を活用した広域連携による産業及び観光の振興を進めること、もう一つは、本市と同じ思い、あるいは同じような認識を持っている自治体との連携を強化することであり、交流人口の拡大、あるいは広域連携による地域防災力の向上につなげることであります。次に「内に優しく」とは、子育て世代包括支援センターさんまぁるを初めとしたきめ細かな子育てサポートやふるさとキャリア教育などによるひとづくり、生活支援体制整備事業のさらなる拡充を通じた地域包括ケアシステムの構築による生活支援、医療・介護の連携強化など、市民の誰もが安全・安心に暮らすことのできる町を目指す「暮らしをつなぐまちづくり」を進めていくことを意味しております。このことを踏まえながら次期

総合戦略では、現戦略の基本目標を維持し「ひとづくり」「暮らしづくり」「ものづくり」「物語づくり」の４つの目標に取り組んでいきます。まず「ひとづくり」においては、将来を担う若者の就労そして結婚への支援を拡充します。ふるさとキャリア教育の取り組みをさらに前進するほか、子育て世代への支援として子供の遊び場の整備など、子供や子育ての視点を大切にしたキッズデザインまちづくりに取り組んでいきます。「暮らしづくり」では、駅など公共交通結節点のバリアフリー化を進めます。また、障害者や高齢者など誰もが安心して暮らすことができるバリアフリーのまちづくりを強力に推進していきます。「ものづくり」においては、農商工連携を含む６次産業化の取り組みに対する支援、先端技術を活用したスマート農林業の展開、ＩＴ関連企業の誘致や連携の強化、地元企業の業務自動化、ロボティック・プロセス・オートメーション、いわゆるＲＰＡの導入への支援や外国人労働者の受け入れ体制の整備など、生産性向上と働き手不足解消に取り組んでいきます。「物語づくり」においては、滞在型観光のさらなる推進を図るために、官民連携により秋田犬の里や石田ローズガーデンの魅力などをさらに向上させるとともに、新たに「忠犬」をキーワードとしたさらなる地域間交流を推進し、関係性人口の拡大を図っていきます。このほか、４つの目標全てに関連する取り組みとして「スポーツを通じて人が育つ、まちも育つまちづくり」にも取り組んでいきます。これは、官民連携によるスポーツコミッションの設立に向けた取り組みを通じて、スポーツの持つ多様な力を、魅力を、人材の育成や健康寿命の延伸、商品の開発、自治体外交などに生かしていくものであります。次期総合戦略につきましては、本定例会において、その骨子案をお示ししたいと考えています。今後も議員の皆様や総合戦略推進懇談会の意見などを参考にさせていただき、10年後、20年後を見据えた新元号令和にふさわしい総合戦略を策定してまいります。

２点目、**まちづくりについて。①駅前、大町、花岡などのまちづくりをどう進めるのかについて**であります。田村議員御案内のとおり、市長として大きな方向性についてお話をさせていただきます。まず、市内各地区のまちづくりにつきまして、例えば、大館駅前地区は観光交流の玄関口として、大町周辺は歴史まち歩きのシンボルあるいはモデル地区として、花岡地区はスポーツや環境リサイクル産業の拠点として、それぞれの地域が既に持っているよさ、長所・魅力を生かしたまちづくりを展開していきたいと考えているところです。また、こうしたエリアに子供の遊び場、そして高齢者の通いの場、幅広い世代が集い互いに学び合う場が生まれ「住んでよし、訪れてよし」の魅力あるまちづくり、「大館に生まれてよかった」「大館で暮らせてよかった」と市民の皆様が感じていただけるまちづくりを進めていきたいと考えております。

②交通弱者対策をどう進めていくのかについてであります。これは、田村議員御紹介のとおり、昨年田代地域においてＮＰＯ法人おおだて福祉ねっとが設立され、日常の移動にお困りの高齢者を地域が支援する仕組みづくりに取り組んでいるところであります。市は県とともに法人の立ち上げや先進地の事例研修、地域講演会の開催などの支援をさせていただいたところで

あります。これも議員御紹介のとおり、国や県、交通事業者、利用者の代表、ＮＰＯの代表等で構成されている「大館市地域公共交通活性化協議会の自家用有償運送運営分科会」においては「できることから始めてはどうか」との御提案があり、現在ＮＰＯとの調整を進めているところであります。そして田村議員にぜひ御理解いただきたい点があります。確かににハードルは高いですが、このハードルを乗り越えるにはさまざまな知恵を出さなければなりません。そして、ただ単に直球勝負で言えばいいというものでもありません。私自身、実際に県や国に行って、いろいろと仕込んで、それが帰ってくるまでの時間的なラグもあります。それまでに関係者の意向と合意を得ておく一方で、関係者の方向性も共有するということもしていかなければなりませんので、言ったからなるというものではないことをまず御理解いただきたいと思います。ただし、担当の部も課も情熱を持って取り組んでいることもぜひ御理解をいただきたいと思います。絶対に私たちは諦めません。力強い応援をぜひお願い申し上げたいと思います。将来的に自動運転サービスなどの新たな技術を見据えながらも、これは昨日の佐藤芳忠議員の御指摘のとおり、高齢化が進む中において待ったなしの移動サービスを必要とされている方々が確実にいらっしゃるということをしっかりと受けとめて、地域の皆様と協力しながら安心して暮らせる仕組みの実現に向けて引き続き取り組んでいきます。このことに関しても話をさせていただくときに、私たちは技術だけの話はしない、技術は私たちの暮らしを豊かにするのではない、その技術を使ってどういう暮らしを実現するのかという志のほかに、市民をつなぎ合わせていく仕組みがなければその技術も持ち腐れになる。だからこそ仕組みをしっかりつくって、そこに技術をフィードバックさせていくということも、担当の課と職員と共有させていただいていることもぜひ御理解をいただきたいと思います。

③**早口駅北側の整備について**であります。改めて経緯に関しまして述べたいと思います。早口駅の連絡通路新設につきましては、旧田代町時代に建設が検討され、合併後もその可能性を多様な観点から検討しましたが、費用対効果について精査をした結果、整備を断念した経緯があるとうかがっています。しかし、大館市長として私があえて申し上げたいのは、だからといって諦めているわけではありません。なぜならば、議員御紹介のとおり、田代地区もまた国内外に発信し得る魅力のある地域であると思っております。そしてまた、早口駅こそは400年の歴史をつなぐ羽州街道につくられたまさに鉄路の玄関ということでもあり、非常に歴史的な物語を持っている場所だとも考えております。先般、市長に就任させていただいて初めて、大鮎の里ふるさとまつりに参加させていただきました。地区の小学生から老壮青の方々が非常にたくさん集まった大変にいいお祭りでした。私が東京で働いていたとき、７月に入ると「福原さん、米代川はどうですか」と聞かれることがすごく多かったです。「何ですか」と聞くと「アユを釣りにいく」ということでした。何百万円もする高価なＲＶ車で来て、実際に釣っているその人たちを見ると、アユもまた立派なＰＲする観光資源であるという思いをいたしております。しかし、こういったものを駅前地区の開発に持っていく上では、同じように田代がも

つ物語に対する興味、そしてそれを発信することをきちんとビジネスとして考えていただけるパートナーをつくる必要があると考えております。先ほどの「駅前地区を観光交流の拠点にする。だからこそ大館駅も投資をする」という話にも実はつながっていきます。大館市はＰＲをしたい意向があります。しかし、それを観光や人をつなぐというサービスをしている会社も一緒になってやっていこうという機運が高まれば、駅に対する投資は、私は十分に持ってくることができると思います。また、この次にお話する市道岩瀬線についても全く同じであります。田代地区に関係する企業の機運を、田代の持っている魅力を、早口駅から発信するという機運をまずつくることが何よりも重要だと考えております。そうした地道な努力の積み重ねの先に、早口駅の北側だけではなく、駅周辺の開発を捉えていくという形で私は進めていきたいと考えておりますことをぜひ御理解をいただきたいと思います。

３点目、**市道岩瀬線整備計画はどうなっているか**についてであります。何もしていなかったわけではありません。市では市道岩瀬線の整備に向け、昨年度、現況の調査そして橋梁の点検を実施し、整備費の概算を算出しているところであります。14キロメートル以上ございますので非常に手間暇がかかります。現在、舗装の新設や橋梁の補修、のり面を保護するための工事、あるいは安全施設などといった大項目を整理しながら、確実に国の交付金支援が得られるよう、精査・検討をしている最中であります。しかしながら一方、他の市道整備と調整をしながらできるだけ早期の事業着手に向け取り組んでいきたいと考えております。また、急ぎ対応が必要となる路面、あるいはガードレールなどの損傷につきましては随時補修を行い、その安全管理に努めてまいりますので御理解をお願いいたします。

４点目、**労働力不足への対応について、外国人労働者の受け入れ体制はどうなっているのか**についてであります。外国人技能実習制度は、外国人に日本の優れた技術を学んでいただいて、いずれは母国の産業を支える人材として帰国することが前提となっている国際貢献事業でありますが、慢性的な人手不足に苦しむ地元の企業にとっては、貴重な労働力ではあると私も認識しております。市では、アメリカトヨタの社長を務めてトヨタ自動車の副社長もされた石坂芳男さんを呼んで、外国人労働者の受け入れについての市職員あるいは関係者への講演会を実施しました。そして、ことしの３月には、外国人技能実習生の日本語教育を行う団体から講師を招きまして、市内企業を対象とした外国人技能実習制度研修会を開催したほかに、７月には県、市町村、各業界団体が共同で「外国人材受入れ・共生に係る連絡協議会」を開催するなど、外国人労働者に関する情報の共有と理解を深めてきているところであります。こうした研修会で必ず言及されるのが、安価な労働力として外国人技能実習生を捉えるのではなく、日本人と同等の給与あるいは福利厚生を保障してあげて、実習生としての権利と正当な利益を保護することなくして、実習生の確保は困難だということであります。こうした中、大館市での役割は日本語教室や生活相談などを通じて、母国を離れて技能習得に励む実習生に寄り添うことだと認識をしております。地元企業のニーズを側面からサポートすることであると認識をしていると

ころであります。市内企業の人手不足は喫緊の課題であります。今後も「子どもハローワーク」や「ふるさとお仕事博覧会」など、早い段階から子供と保護者の皆様に地元企業の魅力を知っていただく機会を提供するなど、若者の地元定着を図るとともに生涯現役社会の実現、ひいては女性の就業環境整備など、多面的に取り組むことにより、地元企業の人材確保、そしてＩＴ投資等の支援などを通じて生産性の向上を積極的に応援していきたいと考えております。また、外国人材のトップセールスに関しては、確かに一理あります。トップセールスは大都市で行うことが常でありますが、例えば台北やバンコクなどの都市に住んでいる若い子に「秋田に来て働きませんか」と言っても、まず首を縦に振る子はいません。理由は簡単です。経済産業成長率は台湾やタイ王国の方がはるかに日本より高いからです。そのため私たちも、コンビニやホテルなどという安易な考えではなく、これは日景議員の先ほどの質問にもつながりますが、大館で働いてもらうことがあなたの人生にとってどういうキャリアパスになるかということも含め、哲学を持って接しないとつながりは生まれないということは実感しています。だからといってやらないということではないです。秋田犬のふるさとと言っただけで、今多くの人たちが振り返ってくれます。そこで市の魅力を伝え「もし、よろしければ来てくれませんか」、最終的には「働いてみてくれませんか」という呼びかけに関しては、今後も積極的に行うことを、この場をかりてお約束を申し上げたいと思います。

５点目、**集団健診について。各地区の協力を得ながらきめ細かに実施できないか**についてであります。今年度の集団健診は、市内28カ所において６月から９月までの日程で実施しておるところであります。健診会場はスペースや冷房の有無などを考えております。十二所地区においては曲田会場及び軽井沢会場を十二所公民館に集約しました。田代地域では、田村議員御紹介のとおり岩野目会場を田代いきいきふれあいセンター・サンピアに集約したところであります。しかしながら、議員御紹介のとおり、このたびの健診会場の集約に際し、周知が不足していた状況が確かにございました。申しわけございませんでした。今後は健診事業の実施に当たりましては、各地区の保健事業を御支援いただいている婦人会、あるいは地域の方々の御意見をきちんと伺った上で、受診率の向上につながるよう取り組んでいきたいと考えておりますので、どうか御理解をお願いいたします。

６点目、**県のコミュニティ生活圏形成推進事業について。市も人口減少対策として事業を実施してはどうか**についてであります。コミュニティ生活圏形成推進事業は、生活の基礎的単位である集落において、少子高齢化あるいは商店が閉店してしまうなど、コミュニティー活動、コミュニティー機能が難しくなっている現状を踏まえ、県が平成30年度に新たに開始した事業であり、本年度は本市を含む県内５市町がモデル地区に設定されているのは、田村議員御紹介のとおりであります。モデル地区に選定された山田地区に関しては、市がサポートしながら事業を進めております。８月９日に行われた専門家による現地調査では、これまで山田地区で行われてきたさまざまな取り組みを高く評価していただいたところであり、今後はワークショッ

プや報告会を開催して、地域課題の解決策などを検討していくこととしております。これも田村議員御紹介のとおり、大館市では地域応援プランを平成22年度から実施しております。目的としては住民みずからが地域の将来ビジョンを策定して行うコミュニティー活動を支援するということであります。「行政でやってくれ、市役所でやってくれ」だけでは令和の時代の行政サービスは、私は成り立たないと思います。まさに自分たちもまちづくりにかかわっていく、自分たちがまちづくりの主人公だという機運をきちんと高めていくコミュニティー活動を官と民が一緒になって支えていくという仕組みが何よりも重要だと考えております。県の事業における取り組み成果などを広く情報提供するとともに、相談体制をより充実させ、市内各地区での横展開を推進しつつ、本市の地域応援プランについて地域の実情を取り入れながら、支援内容の見直し・充実を図り、地域コミュニティーの維持強化にしっかりとつなげていきたいと考えております。

７点目、**スポーツ施設の減免について。子供たちが練習する際の施設使用料は他市町村の子供たちでも減免してはどうか**についてであります。小・中学生が本市のスポーツ施設を使用する際の使用料は、市のスポーツ少年団本部等が主催する大会などの場合は無料であります。また、市民の利用を前提としている地区体育館については、市内の小・中学生は無料としておりますが、確かに市外の方からは使用料をいただいております。ただし、市外のチームを招いて練習試合を行うことは、市内の小・中学生の競技力の向上につながるだけでなく、子供たちの交流を深めるよい機会でもありますので、使用料のあり方について積極的に前向きに検討していきたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。**（降壇）**

○14番（田村儀光君）　議長、14番。

○議長（小畑　淳君）　14番。

○14番（田村儀光君）　１点再質問したいと思います。喫緊の課題である人手不足・人口減少対策についてですが、総合戦略の中では、私はどちらかというと社会減よりも自然減対策のほうに重きを置くべきだと思います。そのためにも、健康長寿にならなければならないし、あとは子供をつくる人をふやせばいい。そういう意味で、市長はどのように考えているのか伺います。それから、外国人労働者について、私ははっきり言って個人的には外国人は余り好きではありません。日本人でどうにかしたいと思っていますので、自然減対策について総合戦略に予算を置いてもらいたいと思います。そのための取り組みを頑張ってもらいたいと思います。もちろん集団健診も大事ですし、若者がいかに結婚するかにも予算を置いていただきたいと思います。それから外国人については、現状、人口・人手不足でどうしようもないです。これには台湾やタイからではなくて、今一番来ているのはベトナム人やカンボジア人、フィリピン人だそうです。そちらに市長がトップセールスに担当者を連れて行って、働く人の企業支援ができればと思っておりますので、その辺の考えをもう一度お願いします。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（小畑　淳君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村議員の再質問にお答えさせていただきます。まずは、総合戦略に関する人口減少対策について、きちんと進めてほしいということにあわせて、外国人労働者の受け入れについて、この２点についてお答えを申し上げたいと思います。前段の総合戦略における人口減少対策につきましては、私も健康長寿日本一を目指す秋田において、まさに自然減の分野においては健康寿命を延ばす取り組みが必要であると考えておりまして、そのためにも「スポーツを通じて人が育つ、まちも育つまちづくり」を進めていく必要があると考えております。また、人口の減少というのは、秋田県においては実は昭和35年から始まっていますが、私は誰が悪いと言う議論はするべきではないと考えています。何回も申し上げますが、人口が減っているこの秋田県において、私たちの命を産み育んでくれたお母さんやお父さん、おばあちゃん、おじいちゃんに対する感謝の気持ちなくして、未来の方向性を語ることはできないとも考えております。よって、自然減を減らすためは健康寿命を延ばす取り組み、社会減を減らすためは魅力的な働く場所の確保とあわせて、包括的な子育ての政策を短期・中期・長期に合わせてきちんと整備をしていく、そういう総合戦略をつくっていきたいと思っておりますし、戦略を確実に実行したいと考えております。外国人労働者に関しては、御質問後段のとおりベトナム人やカンボジア人、インドネシア人が多いそうです。実際に行って人材の募集を図り、大館に来ていただくことに成功している会社の社長さん、あるいは幹部の方々からその辺の情報を聞き入れて、もし日程が合えば私自身も一緒に行って獲得に頑張っていきたいと思っております。もう一つ、外国人の好き嫌いの発言はあえて触れませんが、田村議員が着ている私と同じはちくんポロシャツもおそらく海外製です。私たちが使っている目の前にあるもので、メード・イン・ジャパンだけのものはないはずです。思った以上に私たちの暮らしというのは世界のあらゆる経済活動とつながっています。実はバリアフリーのまちづくりには触れませんでしたが、そういう心の障壁、心のバリアをきちんとフリーにしていくというのも、バリアフリーのまちづくりを進めていく上で担当の部長・課長、管理職だけではなく、市の職員の皆さんとも心のバリアを解消する、これが真のバリアフリーのまちづくりだということも共有させていただいております。この場をかりて田村議員とも共有したいという思いを申し上げ、お答えとさせていただきます。

○14番（田村儀光君）　議長、14番。

○議長（小畑　淳君）　14番。

○14番（田村儀光君）　一点だけ言い忘れました。きのうまでのやり取りを聞いて、部長何人かに答弁をさせました。大変よいことだと思っておりますので、あなたが信頼している部長に答弁の機会を与えてもらえればと思っております。よろしくお願いします。以上で終わります。

議長（佐藤久勝君）　次に、笹島愛子君の一般質問を許します。

〔16番　笹島愛子君　登壇〕（拍手）

○16番（笹島愛子君）　日本共産党の笹島愛子です。ことしの夏は、今までにないほどの暑さでした。皆さんはどのように過ごされたでしょうか。「ことしの夏の暑さは尋常ではない」また「異常過ぎる暑さだ」など、全国の状況が毎日のように報道され、熱中症などで搬送された方々もたくさんおられました。誰もがこの先地球はどうなるのか、温暖化対策は地球的規模で行わなければならない喫緊の課題だと思っているはずです。特に専門家の皆さんからの意見が出てからは久しくなります。そこで私は以前に小・中学校の教室にエアコンをつけるべきではないかと質問しました。そのことに対して**「小・中学校の暑さ対策は遮光カーテンで対応する」とのことでしたが、それぞれの学校で検証したのか**お聞きするものです。昨年もかなり暑い日が続きましたが、ことしは何と36度Ｃ越えが何日かあり、真夏日という言葉ではなく、酷暑とか炎暑という言葉がたびたび聞かれました。何かあってからではなく、遮光カーテンでどれだけの効果があるのか、どこの学校のどの教室は朝から強い日差しが差し込むのかなどを検証し、暑さに対する教育環境を整えてやることが大事だと思っています。どのような検証をされたのか、率直に実態を知らせてください。

２点目です。さきの６月定例会におきまして、加齢による難聴者に補聴器購入費を助成するよう求めたことに対し、市民からは「余りにも高額なので、助成が受けられるのであれば購入したい」という声もありました。国が実施を決定するまで、全国に先駆けて助成することを改めて要請するものです。答弁の中では市長も助成の必要性は認識されておりましたし、麻生財務大臣も国会では必要の旨の答弁をされております。そこで、**加齢による難聴者に補職器購入費を助成するための要件や助成率なども含め、具体化に向けた取り組みの進み具合を示していただき**、難聴によって不自由されている高齢者の方々に希望を与えていただきたいと思うのですが、具体的に進捗状況を市民の皆さんにわかりやすく知らせてくださいますように御答弁をお願いいたします。

３点目です。**プラスチック問題も含め「出たごみをどうするか」では、もはや解決しない。「ごみになるものを減らす」「繰り返し使う」「再資源化する」に、どう取り組むのか。また、消費者に分別を強要するのではなく、製造業者の責任でごみになるものはつくらせないことについて、市長の見解を**お聞きするものです。本市ではここ数年、ニプロハチ公ドームにおきましてエコフェアを開催しております。私は都合のつく限り、市が行っているイベントは見に行くようにしておりますが、ことしは時間の関係で、あるブースだけをのぞき見るようにして帰ってしまいましたので詳細は述べられませんが、市長が行政報告で「環境への負荷をできる限り減らす循環型社会の実現のため、さまざまな機会を通じて３Ｒの普及・啓発に努めてまいります」と述べておりますので、改めてこれについては期待したいと思います。しかし、この３Ｒの言葉だけでは市民の皆さんには意味が届かないと思いますので、ふだん使っている言葉

でＰＲしてはどうでしょうか。ちなみに、この３ＲのＲの１つ目はリデュース――ごみになるものを減らすことだそうです。２つ目のＲはリユース――繰り返し使うこと。３つ目のＲはリサイクル――再生して資源を循環させることのＲの頭文字をとって３Ｒと言っていると思いますが、できるだけ日本語で言った方がわかりやすいと思います。解説はさておき、この問題に本市としては具体的にどのように取り組むのか、今の分別のままでいいのか、市長が述べておりますように、環境負荷をできる限り減らすためにはどうするのが最善なのか。今こそ国や県とも話し合いを広げて実現に向けた取り組みをするべきではないかと痛切に思うものです。プラスチックごみによる環境破壊及び生物界への深刻な影響に関するニュースが連日のように報道されています。私たち市民が頑張って分別するだけではなく、環境への負荷が広がることのないよう、製造業者がごみになるものはつくらないということが求められると思いますが、このことについて市長の見解をお聞かせください。

以上、簡単ですが３点の質問を終わります。**（拍手）（降壇）**

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの笹島愛子議員の御質問にお答えいたします。

１点目、小・中学校の暑さ対策は遮光カーテンで対応するとのことだったが、それぞれの学校で検証はしたのかについては、後ほど高橋教育長からお答えを申し上げます。

２点目、**加齢による難聴者への補聴器購入時の助成について、助成要件や助成率などどこまで具体化できたのか**についであります。厚生労働省では、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）において、認知症の危険因子の一つとして難聴を上げております。補聴器を使用した場合の認知機能低下予防の効果を検証するとしております。市としましては、まずは、第８期介護保険事業計画策定時のアンケート調査の中で補聴器に対するニーズ調査を行い、現状・実情の把握に努めます。なお、加齢性難聴による補聴器への補助を行っている自治体は、全国的にほとんど例がございません。大館市としては国の検証結果を待って、国や県、他自治体の動向を注視しながら、高齢者の生活の質を高めるための政策形成に積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうか御理解をお願い申し上げたいと思います。

３点目、**プラスチック問題も含め、「出たごみをどうするか」ではもはや解決しない。「ごみになるものを減らす」「繰り返し使う」「再資源化する」に、どう取り組むのか。また、消費者に分別を強要するのではなく、製造業者の責任でごみになるものはつくらせないことについて、市長の見解を**についてであります。まずもって、笹島議員のこの質問を聞いたときに私の頭によぎったのは、24年前の私自身の初めての一般質問でありました。「リサイクル・マイン・パークは国の宝になる、積極的に進めよう」という提案を当時の小畑市長にさせていただいたことをきのうのことのように覚えております。自来、大館市としては秋田県と連携をして積極的にこの環境政策分野の充実と実現に努めてまいりました。ちなみに、時系列的に申し上げますと、平成７年６月から環境リサイクル分野の施策が一気に進みまして、４年後の平成11年11

月10日、秋田県北部エコタウン計画が当時の通産省によって認定されました。小畑市長の御配慮もあり、私は認定式に同行させていただきましたので、きのうのことのように覚えております。重要なのがその次の年、平成12年６月２日に循環型社会形成推進基本法が施行されまして、まさに我が国日本における循環型社会の形成を推進する基本的な枠組みの法律ができたことを通じて、廃棄物、リサイクル政策の基盤が確立されていました。以下、通称でありますが、容器包装リサイクル法・家電リサイクル法・小型家電リサイクル法・建設リサイクル法・食品リサイクル法・自動車リサイクル法・パソコンリサイクル法など、こういった法律に基づいて大館は積極的に進めておりますことを御理解いただきたいと思います。また、製造者としての役割に関してはメーカーの責任ということでプロダクト・ライアビリティ法、いわゆる製造物責任法があり、こうした側面についても機会があるごとに市民の皆様に周知し、何かあれば御説明・御案内をさしあげている状況であります。そうした中、冒頭に笹島議員が温暖化の話をされましたが、そのことを通じて一つ思いをいたしたことがあります。イスラエルの歴史学者でユヴァル・ノア・ハラリさんの「ホモ・デウス」という本が昨年非常に注目を浴びました。内容を申し上げると、私たちホモ・サピエンスは絶対に死なない（不死)、究極の幸せ（幸福)、神様の性格（神性、神格）を目指してホモ・デウス（神の人）へと自身をアップグレードさせていく存在になっていくという本でありました。この本の予言は的確に当たっていると感じております。昨今、大手コーヒーチェーン店がプラスチックのストローを使わなくなったことは、まさに資本主義が今大きくアップグレードしているものと感じております。こうした流れは着実に進んでおります。現在、国・自治体、民間企業が持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に取り組む機運が急速に高まっております。今、私自身がつけているバッジはＳＤＧｓのバッジになります。環境問題や社会問題に配慮した活動はむしろ当然であると考える時代が始まろうとしています。ＳＤＧｓでも言及されている食品ロス問題につきましては、ことし５月に食品ロスの削減の推進に関する法律が公布されております。国・地方公共団体、事業者・消費者等の多様な主体が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進する取り組みが始まったことは、新しい時代の流れと認識しているところであります。鉱山からつくろうリサイクル・メダル・プロジェクトもそうですが、今後も大館は環境リサイクル事業の周知を継続し、環境共生都市あるいは環境先端都市を目指して、住み続けられるまちづくりの実現に今後も頑張ってまいりますので、どうか御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。**（降壇）**

○教育長（高橋善之君）　議長。

○議長（小畑　淳君）　教育長。

○教育長（高橋善之君）　１点目、**小・中学校の暑さ対策は遮光カーテンで対応するとのことだったが、それぞれの学校で検証はしたのか**についてお答えいたします。けさの地元紙に「８月中旬に記録的な暑さ」というタイトルの記事が載りました。確かに８月15日には大館でも

37.6度Ｃという大変な暑さでございました。このとおり夏全体としては大変暑い夏でございましたが、10日ほど前から、ちょうど学校の２学期が始まったころから随分涼しくなりました。７月の気温の状況に関しましては、授業日、いわゆる学校のある日に真夏日となったのは７月16日、17日、18日の３日間でございました。議員から御指摘がございました暑さ対策として、西日が入る教室等への遮光カーテン設置について検討いたしましたが、このことについて全学校から聞き取りをした結果、必要な箇所には「よしず」などを既に設置済みである等の理由で、新たな設置を求める要望はございませんでした。学校現場では、風通しをよくするために教室の戸や欄間を外すとともに扇風機を複数台使用するとか、子供たちに冷水の入った水筒を持参させるとか、中学校の場合は半袖短パン等、服装で調整するとか、部活動においては20分ごとに給水時間を設けるなどの熱中症対策をしております。また、真夏日が続く夏休み中に児童が過ごす放課後児童クラブがございますが、そこにはエアコンが完備されております。今年度、真夏日に熱中症になった児童生徒はおりませんでしたけれども、今後も夏季の気温と子供たちの状況を把握しながら適切な対応をしてまいりますので、どうぞ御理解を賜るようお願いいたします。以上でございます。

○16番（笹島愛子君）　議長、16番。

○議長（小畑　淳君）　16番。

○16番（笹島愛子君）　一問一答でお願いします。今、教育長から遮光カーテンの必要性とか、要望がないような話をされましたけれども、私は必ずエアコンをつければいいと考えているものではありません。要するに、勉強できる環境を整えていただきたいということです。前回、市長は一番暑いときが夏休みになるのでそれほど影響がないという話をされておりましたので、それはそれでいいのですが、私が自分の家を出てくる時に遮光カーテンを閉めて出てくると、家に帰ってからも随分違います。これからどれだけの暑さになるかわかりませんけれども、もしそうなったときには、教育長、ぜひ遮光カーテンや扇風機等も含めて対応していただきたいと思います。これは答弁は要りません。２点目の補聴器購入時の助成についてお聞きしたいと思いますが、この質問をした後は、かなりいいことだと言われました。市長からは国や県の動きを見て対応したいということでありましたし、ニーズ調査も行うということでありましたけれども、担当課からお聞きしましたところ、ことしはもう調査はやらないということでした。例えば、来年やるとすれば、それに基づいてどうするのか、議会にかけて条例にするのか、要綱にするのかということで、また絶対１年以上はかかると思いますけれども、皆さん期待されていると思いますので早めの対応をしていただきたいと思うのです。来年のニーズ調査ではなく、ことしの秋ごろに実施することはできないのか、そこをもう一度お聞きしたいと思います。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（小畑　淳君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　今年度、ニーズ調査を行うことを約束いたします。

○**16番（笹島愛子君）**　議長、16番。

○**議長（小畑　淳君）**　16番。

○**16番（笹島愛子君）**　ぜひ、よろしくお願いします。３点目の問題について、この場所ではやり取りできないくらい大きな問題ですが、一つだけお聞きしたいと思います。市長が今、24年前のリサイクル・マイン・パークの話をしましたけれども、私はその当時からごみの問題についてはいろいろな本を買っていました。今もその本を持っているのですが、例えば21年前に買った「だれにもわかる環境ホルモンＱ＆Ａ」というのがありました。それから「ごみ行政はどこが間違っているのか？－リサイクル社会を問い直す」、これは20年前のものでした。それから「プラスチックゴミの危うさ」は19年前のもの、「スッキリわかるごみ問題」は14年前に買ったもので、こういった本が積まれていて、改めて見ましたけれども本当に大きな問題であり、私たちのこれからの子供たちにも引き継いでいかなければならない問題だと思いました。そこで、お聞きしたいのは、徳島県の上勝町では34もごみの分別をしているそうです。私たちがこれをやるとなれば、多分猛反対が起きると思います。でも、小さい町だからできたということではなくて、これからはそういったことも含めてやらなければならないのではないかと思います。上勝町でやっている「ゼロ・ウェイスト宣言」というのがありました。市長は御存じかもしれませんけれども、宣言が３つありました。３つ目が「地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！」とあります。本当に地球的な規模で取り組まなければならない問題だと思いますので、この大館でも「ゼロ・ウェイスト宣言」にするかどうかは別としても、こういったことを考える必要があるのではないかと思います。これについては市長いかがでしょうか。

○**市長（福原淳嗣君）**　議長。

○**議長（小畑淳君）**　市長。

○**市長（福原淳嗣君）**　私も笹島議員と同様に捉えております。ごみというのは漢字の当て字で「誤美」と書く人もいます。私たちが暮らす中で文明の利器を謳歌しつつも、実はごみを出している側、加害者の側でもあるという意識が非常に重要だと思っております。改めて申し上げます。時代は24年前と大きく変わっております。Ｇ７でも海洋ごみのことが議論される時代が来たのだと再認識しています。24年前から環境先端都市を目指している大館市は、今まで以上にこまめに環境リサイクルの重要性を市民の皆様に普及・啓発をしていきたいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○**議長（小畑　淳君）**　以上で、一般質問を終わります。

日程第２　議案等の付託

○**副議長（小畑　淳君）**　日程第２、議案等の付託を行います。

議案等27件は、お手元に配付しております議案等付託表のとおり、それぞれ各委員会に付託いたします。

議　案　等　付　託　表

番　号	件　名	付託委員会
認　第６号	専決処分の承認について（大館市特別養護老人ホームに関する条例の一部を改正する条例）	厚　生　委
議案 第90号	大館市印鑑条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第91号	大館市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第92号	大館市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第93号	大館市子どものための教育・保育給付に係る利用者負担額に関する条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第94号	大館市へき地保育所設置条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第95号	大館市消防団員の定員及び任免に関する条例の一部を改正する条例案	総　財　委
〃　第96号	大館市水道給水条例の一部を改正する条例案	建　水　委
〃　第97号	大館市小規模水道等給水条例の一部を改正する条例案	〃
〃　第98号	財産の取得について（除雪ドーザ（11ｔ級）１台）	〃
〃　第99号	市道路線の廃止について（白沢線）	〃
〃　第100号	市道路線の認定について（長木川南４号線外６路線）	〃
〃　第101号	令和元年度大館市一般会計補正予算（第２号）案	（ 分 割 ）
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳入　全　部 歳出　第１款　議会費 第２款　総務費（ただし、第１項第19目及び第３項を除く） 第９款　消防費	総　財　委

	第３条第３表　⑴・⑵地方債補正 （ 最　終　調　整 ）	
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第２款　総務費のうち、第１項第19目及び第３項 第３款　民生費 第４款　衛生費（ただし、第１項第17目を除く）	厚　生　委
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第６款　農林水産業費 第７款　商工費 第10款　教育費 第２条第２表　債務負担行為補正	教　産　委
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第４款　衛生費のうち、第１項第17目 第８款　土木費	建　水　委
議案 第102号	令和元年度大館市国民健康保険特別会計補正予算（第２号）案	厚　生　委
〃　第103号	令和元年度大館市介護保険特別会計補正予算（第２号）案	〃
〃　第104号	令和元年度大館市戸別浄化槽整備事業特別会計補正予算（第１号）案	建　水　委
〃　第105号	令和元年度大館市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）案	〃
〃　第106号	令和元年度大館市財産区特別会計補正予算（第２号）案	総　財　委
〃　第107号	令和元年度大館市水道事業会計補正予算（第２号）案	建　水　委
〃　第108号	令和元年度大館市工業用水道事業会計補正予算（第１号）案	〃
〃　第109号	令和元年度大館市病院事業会計補正予算（第２号）案	厚　生　委
請願 第２号	扇田市日内トイレの洋式化について	教　産　委
〃　第３号	秋田犬会館の改修工事への助成について	〃
陳情 第11号	外国人労働者受け入れ政策の中止を求める陳情	〃

陳情 第12号	大館市におけるＰＦＩ事業の全面的な中止を求める陳情	総　財　委
〃　第13号	新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出要請について	〃
〃　第14号	消費税率10％への引き上げ中止を求める意見書の提出要請について	〃

○**議長（小畑　淳君）**　以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の会議は、９月17日午前10時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後０時５分　　散　　会